

やすらぎ通信

第19号 (平成24年6月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

水無月(水張月)

夏の思い出

江間章子作詞 中田喜直作曲

- (一) 夏が来れば 思い出す 遥かな尾瀬 遠い空
霧の中に うかびくる やさしい影 野の小径 (こみち)
水芭蕉の花が 咲いている
夢見て咲いている 水のほとり
石楠花 (しゃくなげ) 色に たそがれる
はるかな尾瀬 遠い空
- (二) 夏が来れば 思い出す 遥かな尾瀬 野の旅よ
花のなかにそよそよと ゆれゆれる 浮島よ
水芭蕉の花が 匂っている
夢見て匂っている 水のほとり
まなこつぶれば なつかしい
はるかな尾瀬 遠い空

季節はいよいよ本格的な夏に進んでまいりました。しかし、乗り越えなければならぬのは梅雨。小さい頃、梅雨と言うと「でんでんむしむしかたつむり…」と歌いかたつむりと遊んだ思い出、「あめあめふれふれ母さんと」と歌って母と手をつないで歩いた思い出など楽しい思い出ばかりがよみがえります。昨今のように、集中豪雨による大水害が次々と発生したという記憶はあまりなく、これらの歌のように自然はもっと人間に優しく、また人間も自然と仲良く付き合ってきました。

さて、梅雨の雨は万代池の「かきつばた」にとっては、成長するいのち水。梅雨の雨を吸いつつ成長し今年も見事な青紫の花を池の端のバイオトープで見せてくれています。（万代池には、かきつばたを繁殖させるためのバイオトープ（ビオトープ：生育空間）が一角に設けられています。）



5年に1度のフランスの大統領選挙が終わり、サルコジさんは再選されず新しい大統領にはオランドさんが選ばれました。一般に、日本人はフランスが大好きなように、ヨーロッパのなかでもフランス人はとびきり日本が大好きだと言われています。

サルコジさんの前の大統領のシラクさんは、その日本大好きフランス人の代表みたいな方で、シラクさんが日本にやってこられたのは公私合わせて大統領職在任当時で、すでに50回近くにまで上っていたそうです。シラクさんは単なる知日派を超えて日本文化にすごい造詣をもっておられ、その知識により、来日期間中に政府が付けた案内役の日本人アテンダーもたじたじになったほど、日本文化に関して詳しくなっているとされています。また、大相撲が大変好きで（当時も今も、フランス人力士はいないと思いますが）、2005年の大統領としての公式訪日の際には、真っ先に大相撲大阪場所を見るために、関西国際空港に降りたとされているほどです。

ところで、私自身、フランス人の日本好きに関しては、以前、次のような経験をしたことがあります。

今から10年余り前にPR用に作っていたある冊子の連続企画として『外資系企業のトップに聞く』という対談形式の巻頭インタビューの掲載をしていたことがありました。

立場上そのインタビュアーを務めておりましたことから、その年には、ドイツの大手製薬企業の日本法人の社長さん、日米合弁のアウトレットモールの社長さんとフランスの世界的損保会社の日本法人の社長さんの3人にインタビューをしましたが、そのフランス人の社長さんと対談したときの経験です。

その会社のオフィスは、東京のお台場に本社があり、外注の編集スタッフなどを連

れてその事務所にお伺いしました。中に入りますと、予めアポイントメントを入れておりますから、日本人の女性の秘書課長さんに暖かく出迎えていただき、「こちらでしばらくお待ちください。時間通りに社長はお会いさせていただきます。」と、とても明るくおしゃれな雰囲気のある会議室のようなところに通されました。部屋のデザインも配色も、机も椅子もすべておしゃれな美しいデザインの家具ばかりで、さすがに、フランスの企業はセンスが違うと感心しておりますと、それを見透かしたかのよう、その秘書課長さんは「社長は、フランス人でありますからフランスであることに、強いこだわりをもっております。社内で使用する家具から事務用品、ペンの1本にいたるまで全てフランス製しか使っておりません。今、お出ししているミネラルウォーターもフランスから直接送らせたものです(ミネラルウォーターで有名なエビアンはスイスとの国境レマン湖に面した美しい小さなまちの名)。また、最近、コールセンター拡大のため、オペレーターを採用したのですが、社員を座らせる椅子のフランスからの到着が遅れております。このため、採用した方には自宅待機をいただいています。日本人の私なら到着するまでの間は日本製を使えばいいじゃないかと思うのですが、そうはならないのですね。」と笑いながらおっしゃっていました。

フランス人は気高く自分のアイデンティティには非妥協的であるとは聞いていましたが、そこまでこだわるとはと驚きました。と同時に、これから始まる対談がうまくいくのだろうかという若干の不安が頭をよぎりました。

しかし、そうした私の不安はすぐに一掃されました。やはりヨーロッパの世界的企業の幹部となると人のもてなし方がとてもうまく洗練されています。フレンドリーな笑顔で「何を使得お越しになりましたか？ゆりかもめ？それは最悪の体験をなさいましたね。新橋からゆりかもめに乗ってきて当社の目の前に来て降りようとすると、とたんに踵を返して離れていく。あれほど意地悪な乗り物はありません。」と笑わせてくれました。「目の前の新橋から20分もかかるのですよ。信じられないでしょう。大阪にもあのような不便な乗り物がありますか？」

とても、ソフトで気さくな人柄に、直前までの警戒心はすぐさま消えてなくなり、インタビューはとてもリラックスした友好的な雰囲気ではじめることができました。ところが、インタビューが進むにつれて予想外の落とし穴が待ち受けていたのです。

こういうインタビューをする場合、予め相手の経歴とか趣味などを調べ、また、相手が発言している雑誌などに目を通して、ある程度の予備知識を事前に入れ込んで臨まなければなりません。それをしないで、焦点の定まらないインタビューをすることは大変失礼に当たります。従って、この時も、辣腕の経営者であるとともに、プライベートではとても親日的で日本文化に造詣が深い、特に小津安二郎の映画がとても好きだという情報を予め掴んでいましたから、事前に小津の代表作である「東京物語」

もビデオ屋さんで借りて見たうえで臨みました。

しかし、インタビューの話題が日本文化に入った途端に、それまでの自分の余裕は全くなくなってしまいました。相手の小津映画に対する造詣の深さは半端なものじゃないと分かったからです。付け焼刃の知識では化けの皮がすぐはがれてしまいます。その社長さんはフランスで、これまで、東京物語どころか多くの小津映画を見ておられ、カメラワークのようなすごく専門的な知識も持っておられ、なぜ自分が小津を評価するかをきっちりと話されるのです。「あなたは、小津映画のどこが素晴らしいと思いますか？」と質問されたときにはとっさにどう答えていいか言葉が浮かばず、やっとのことで「日本人の本来もっている繊細な心のひだみみたいなものを描こうとしたのじゃないでしょうか。」と慌てて答えました。しかし、答えたものの「この人物は全く小津安二郎のことを理解せずに小津の話題を口にしたのでは」と見透かされているようでととても冷や汗が出ました。それで、早々に映画の話題は切り上げ、体勢を立て直すべく、「フランスでは柔道をなさっておられる方がとても多いとお聞きします。故郷のまちには柔道場がありましたか？」と無難な話題に転換しました。すると、「柔道場どころか、故郷の隣まちには剣道場もありましたよ」との答えが返ってきて、また1本取られてしまいました。

剣道までフランス人の日常生活の場に入り込んでいるとは夢にも思わず、逆にその場でフランス人から日本文化を教わることとなってしまったのです。

インタビューは、仕事で行っているわけですから、それなりの内容になるよう何とか取り繕って終えることができました。しかし、改めて、フランス人の日本文化への傾倒はただものではないと、これは大きな発見でした。

ところで、映画の世界では、小津映画に加え溝口健二の評価も高く、これらの映画は未だパリの映画館で上映されていると聞きます。溝口健二は小津安二郎、成瀬巳喜男、黒沢明と共に日本映画界の巨匠と言われていましたが、ヴェネツィア映画祭でサンマルコ銀獅子賞を受賞するなど小津と並んで海外の映画関係者から非常に高い評価を受けたと言われている監督です。

ところで、フランスにおけるこうした根強い小津、溝口人気は、どちらかということになると年齢的にある程度の年齢から上の世代ということになるようです。

1980年代以降に生まれた若い世代はどうなのか。この世代もとても日本が大好きだと言われており、それを支えているのはジブリに代表される日本の質の高いアニメ作品だそうです。宮崎駿の名を知らないフランス人はいないと言われるくらいに宮崎やジブリの名が通り、作品はメジャーな日本文化として受け入れられているそうです。

また、ジブリに比べるとまだまだマイナーなサブカルチャーとしての評価ですが、ジブリ以外のアニメやコミック、コスプレなんかも一部の若い世代に支持されつつあ

ります。

コスプレまで行くと、多少日本人的に言えば「オタク」ということになり、ついて行けそうにはありませんが、フランスでは、もっと明るく堂々と「日本の最先端ファッション」として受け止められているようです。

今後、これらがジブリのようにメジャーな存在になっていくのかどうかはジブリのアニメを見ながら大人になった、今の20才代から30才代の世代にかかっているとも言われています。

また、北野武も大きな支持を得ています。もともと、映画は特別な重みのある芸術分野と思われているフランスにおいて、北野の作品がフランス最高の芸術文化勲章「コマンドール賞」を獲得したことにより、北野武は一躍世界一流の映画監督の仲間入りをしたのです。こうした映画監督としての評価が高まるとともに、画家や作家など他の芸術分野にもその能力を発揮する多彩な芸術家としての評価を固めつつあるようです。

また、フランス人と日本文化の関係を論じる場合にジャポニズムの問題を忘れることができません。

19世紀の末、フランス絵画の世界では印象派の芸術運動が吹き荒れました。モネ、ドガ、ルノアール、セザンヌ、ピサロ、シスレーなどの新しい自由なモチーフ、自由な作風の新しい芸術運動が起りましたが、それに大きな刺激を与えたのが浮世絵などのジャポニズムとよばれる絵画でした。印象派の彼らは、それまで絵画は写実的でなければならないとされていた伝統的な絵画を、浮世絵の大胆な色使い、日本画の自由な空間表現に触発され、細部やタッチにこだわらず、自由な空間表現と明るい色彩を多用した新たな絵画を生み出しました。印象派の誕生です。

また、ポスト印象派の代表であるゴッホもまた、日本の浮世絵から大きな影響を受けた一人と言われております。

小津や溝口に加え宮崎や北野、さらにジャポニズムにおいてもそうですがフランスには、その作品や作品群の中に潜む果てしない芸術性をどの国の誰よりもどこよりも早く発見し、それを世界に知らしめ、その価値を世界的に認知させることができるパワーが備わっています。

世界の片隅の知られていない存在でしかなかった日本の浮世絵が、当時フランスを中心に活躍していた印象派の作家たちに高く評価されたことにより、世界中にその芸術性が認知され、日本を代表するメジャーな芸術として世界に知られるようになりました。

これが、ルーブルやオルセーなど多くの美術館を擁し、多くの有名な絵画などの芸術の富を一手に手中にし、世界の芸術・文化の中心点として君臨しつづけるフランス

の偉大さと言えるかもしれません。

また、同時に映画や絵画、アニメあるいは柔道や剣道など日本独特の芸術作品や「道（どう）の文化・スポーツ」がフランス人たちに強く支持され評価されることに私たち日本人は大きな誇りと自信を持つべきだと思います。

今日の日本社会は 1990 年代以降の経済停滞や新興国の追い上げにより、長期にわたる経済低迷から抜け出せず、社会全体を貫く中心的な価値観もない混沌とした状況が持続しています。その負の影響を直に受けているのが日本の子どもたちや若者です。

子どもや若者たちのおかれているこうした状況を克服しない限りは、日本の前途は全く見えてきません。

団塊の世代が、敗戦や戦後の混乱のトラウマを克服できたのは、1960 年頃から始まった高度経済成長ですが、今の日本の置かれている状況では経済にその活路を見出すことは困難です。

そこで今こそ、フランス人も高く評価する、私たちの大きな財産である優れた芸術や文化などにその活路を見出すべきではないでしょうか。

日本では、芸術や文化は不況になれば真っ先に切られる運命になっています。「芸術や文化では飯が食えない」とは政治家や官僚から常に出てくる言葉です。しかし、フランスでは、芸術や文化は国家戦略として、経済よりも優先される価値観として、ずい分と以前から位置付けられてきました。フランスの文化大臣というのは首相の次に格が高いとされています。もちろん多くの世界的に有名な観光地や芸術・文化遺産等を抱かえていることから、それらが高い経済効果をもたらすという側面があるかも知れません。しかし、それ以上に、芸術や文化が時の経済動向に左右されない国家のインフラとして国家の存立を支え、国民を精神的に鼓舞するのに大きな効果があることをよく知っているからだと思われまます。

一方、日本はシルクロードの東端の地として、古代ペルシャやイスラム圏、インド、中国、朝鮮など様々な文化や文明を吸収し、独特の文化を作り上げ、その結果、狭い国土に関わらず、多くの文化遺産や自然遺産が世界遺産として登録されています。決して、その質や量においても決してヨーロッパにひけはとりませんし、浮世絵や近代絵画などでも優れた作品を生み出し、ヨーロッパの芸術や文化にも影響を与えています。

もはや、経済で世界の覇権を競う時代は終わり、これからは、芸術や文化を生み出す力や人間と自然との関係性をうまく構築できる精神性の優劣が世界をリードする決め手になる時代を迎えつつあると思われまます。そのためにも、フランス人が高く評価する日本の芸術や文化や、日本人の優れた自然観などの精神的価値の優位性をきちんと子どもや若者に伝え、自信と誇りをもって世界の中で暮らしていけるようになれ

ばと思う次第ですが、皆さん方いかがでしょうか。



毎年秋に相愛大学、森ノ宮医療大学と共催で開催しております連携シンポジウム「生と死を、今考える」シリーズにつきましては、毎回ご好評いただいておりますが、今年も10月に、免疫をテーマとして「生と死を、今考えるⅢ—“疫を免じる”・がんと免疫の力—」と題して開催させていただくことになりました。前半は大阪大学大学院医学系研究科教授の杉山治夫先生に「ここまで来たがん治療—WT 1 がん免疫療法の最新の成果」の基調講演、当センター医務局長による関連講演「がん診療における免疫力」と、主にごがん治療の最新の成果のお話し。後半は、ぐっとリラックスして、がん予防や健康づくりも含めた「免疫と健康—笑いは健康の原点」と題して落語を交えてのパネルディスカッションを行っていただく予定です。そのために、今回は健康問題にも明るい上方落語・笑福亭一門の大御所・笑福亭松喬さんにご出演をいただくことになりました。松喬さんには、まず落語を一席語っていただき、そのあとパネルディスカッションにもパネラーとしてご参画いただきます。コーディネーターは相愛大学の釈徹宗先生。超豪華メンバーのシンポジウムになりますので、皆さん是非ご期待ください。

また、相愛大学との連携事業糖尿病予防セミナーも11月に第3回を開催させていただきます。

申込み期間等、詳細につきましては8月1日号でお知らせしますのでよろしくお願い致します。

ところで先月、いつも「三代目春団治一門会」でお世話になっております桂梅団治さんからメールをいただきました。「少し気になっていることを申し上げます。寄席の名前が『万代やすらぎ亭寄席』となっておりますが、『……亭』と『……寄席』というのはあまりくっついているのを見たことがありません。たとえば『万代寄席』にして『……亭』と切り離すか、どうでしょうか。」というあり難いご提案です。この名称は以前から気になっていましたので、梅団治さんのアドバイスに従いすぐに変更することに。熟慮？のうえ思いついたのが「万代」の次に「夢」を付けて「万代・夢寄席」。患者さんの「早く健康を取り戻したい」「以前のような生活に戻りたい」という夢、地域の方々が持つておられる様々な夢、こうした皆さんの夢が触れ合い実現できる場にとの願いを込めて「夢」という字を入れることにしました。梅団治さんからも「◎ですよ」と暖かいご感想をいただきました。因みに「万代寄席」をインターネットで調べましたら新潟県に「万代」という地名があり、「〇〇万代寄席」というのを

定期的に開催されておられます。また、岩手県に「萬代館」という劇場があり、ここでも定期的に「萬代寄席」というのを開催しておられるようです。幸いにしまして「万代・夢寄席」というのは調べた限り見当たりませんでした。従いまして。次回のやすらぎ亭「太神楽曲芸—豊来家玉之助」から「第7回万代・夢寄席」と名付けて開催させていただきます。

今月から新しいコーナー「纜（ともづな）」を設けました。纜とは船の「もやい」のことで、この纜により船はしっかりと岸壁に結ばれます。私たちは当センターを「希望」「よろこび」「やすらぎ」の医療空間にすることとともに、地域に開かれた施設として文化、コミュニティなど様々な交流の場となることを目指しております。そのためには、私たちの情報だけでなく、連携事業などを通じ私たちと思いをともにされている方々の様々なイベント情報などを発信することにより、人々や地域の絆を手繰り寄せる「纜」の機能を果たしていければとの思いからこのコーナーを設けました。

NEWS

【(新)前立腺がんの手術 —腹腔鏡手術からロボット手術へ—】

泌尿器科主任部長 山口誓司

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきています。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適応され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきています。

当科では2009年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010年に施設認定を取得し2011年は69例の前立腺がん手術のうち36例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に関係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は10日から2週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となりました。今後はこのロボット手術が増えていくものと予想されています。

そこで当センターでは、このたび手術支援ロボット「da Vinci S」(ダ・ヴィンチ)を導入し、前立腺がんの手術に活用することになりました。ダ・ヴィンチは米国Intuitive Surgical社が開発した内視鏡手術用の医療ロボットです。2000年に米国FDAで承認され、日本では2009年販売が承認されました。2011年12月現在、全世界で2132台納入されており、そのうち米国は1548台です。アジアでは韓国で早期に導入され、この領域ではアジアのリーダーとなっています。日本ではなかなか普及するに至りませんでした。最近少しずつ導入されつつあり、2011年末現在で40台が全国で導入されています。米国では年間10万件の前立腺がんの手術のうち実に8割がダ・ヴィンチを使った手術となっています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された3次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。従来の腹腔鏡手術では3次元画像での手術は行われていませんでした。また、手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に関係する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された3次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が生かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減が期待されており、今後急速に普及されるものと思われます。

【(継)高度医療センター―「低侵襲心血管治療センター」開設のご案内―心臓血管外科】

新緑の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。

さて、4月に高度医療センター「低侵襲心血管治療センター」を開設いたしました。

近年、ますます高齢化社会となり、高齢および重篤な合併症をお持ちの心血管系の患者さんが増加しております。このような患者さんに、通常の手術術式では、やはり成績が不良であるのが現状です。

大阪府立病院時代、1993年より大動脈瘤に対するステントグラフト手術を導入し、日本さらには世界の先駆的基幹病院として治療を行って参りました。その治療チームの低侵襲治療への意気込みは、大阪大学心臓血管外科にて移行され、大きく成長し、世界でも有数の症例数と成績を得られるようになり、あらゆる大動脈疾患に対応できると自負しております。さらに近年、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術を日本で最初に開始し、50例を超える患者さんを治療しております。

今回、我々のチームにより、再度、伝統のあるこの病院で、「低侵襲心血管治療センター」を開設できましたことに、極めて感銘を受けております。医師は、大阪大学心臓血管外科 低侵襲治療チームが当センターで勤務し、かつ重症症例にはチーム一丸となってあらゆる症例に対応できると思っております。また以前より低侵襲治療に携わってきた Co-medical、看護師さんも多く、さらに質の高い医療が出来るものと期待しております。また当院においても経カテーテル的大動脈弁置換術を、早急に導入できる見込みと考えております。

低侵襲心血管治療センター

外来 水曜日 倉谷 徹 (大阪大学 低侵襲循環器医療学講座 兼任)

木曜日 金 啓和

【(継) “総合内科”を開設のご案内―総合内科―】

春風駘蕩の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

去る4月1日より当センターに総合内科新規開設とともに、診療科責任者および指導医として大場雄一郎医師が赴任しております。総合内科は、感染症を主とした内科系の境界領域の診療、多重合併症をもつ患者さんの診療、診断未確定で担当診療科が定まっていない患者さんの診断と初期診療、といった役割を担うこととしています。

また、初期研修医・後期研修医の総合的診療能力を培うための医学教育に尽力することも課題としております。新規診療科として活動することで、当センターおよび地域の医療の機能向上に貢献させていただきたいと思っております。

医務局長兼総合内科部長 谷尾 吉郎

【(継)関節リウマチ・バイオサポートセンター を開設しました！―免疫リウマチ科】

関節リウマチの治療に非常に効果の高い生物学的製剤が開発され、近年多く治療に使われ出したことから、地域の医療機関でも安全性を確保しながら治療を行うことが可能と

なるようサポートさせていただく「関節リウマチ・バイオサポートセンター」を4月1日に開設しました。

設置に当たっての免疫リウマチ科部長からのメッセージをご紹介します。

<関節リウマチ・バイオサポートセンターの設立にあたって>

免疫リウマチ科主任部長 藤原 弘士

「関節リウマチでは、激しい関節の痛みや変形による動作の不自由さから、患者さんはつらい思いをされます。しかしながら今では治療も進歩し、とりわけ生物学的製剤という新しいお薬によって、関節リウマチの多くの患者さんが良くなり、一部の患者さんでは治癒される方もみられるようになってきました。

その一方で、生物学的製剤を使用すると、半年間で数パーセントの確率で、重篤な副作用が生じることも事実で、その副作用の予防や治療も非常に重要です。

そこで、私たちはこのような非常によく効く生物学的製剤を、患者さんと主治医の先生方に安全にそして安心してご使用していただけるように支援することを目指した関節リウマチ・バイオサポートセンターをこのたび開設しました。

これまで以上に、多くの患者さんが現在の関節リウマチ治療の進歩の恩恵を受けることができるように努めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。」

【(継)前立腺がん、頭頸部がんのIMRT治療を行っております ー放射線治療科ー】

IMRT(強度変調放射線治療)は、周辺の正常組織の線量を減らし合併症のリスク低減に画期的な方法です。昨年11月から前立腺癌に対するIMRTの保険診療を開始しましたが、現在、適応拡大して頭頸部癌のIMRTも行っております。頭頸部癌では脳・脊髄・唾液腺など重要臓器が複雑に関係し、通常の放射線治療では唾液腺障害が必発です。さらに腫瘍に対しても十分な線量を投与することが難しいケースもあります。IMRTの技術を用いればこれらが解決し、腫瘍制御率向上だけでなく患者さんのQOL維持にも役立ちます。

主な対象疾患は咽頭癌です。適応など詳細については放射線治療科もしくは耳鼻咽喉・頭頸部外科までお問い合わせ下さい。

【(継)PET-CT 地域の医療機関からの検査受付しておりますー画像診断科】

当センターでは、がん診療の充実をめざし、診断精度の一層の高度化を図るために、これまで外部に検査を依頼していたPET検査を内部で可能となるようPET-CTの整備を進めてきましたが、3月から検査を開始し。先月からは地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けています。

(なお、当センターのPET-CTは検診依頼には対応しておりませんのでご注意ください。)

お問い合わせは画像診断科 RI(核医学)・PET検査室まで。

【(継)土曜日の「地域予約」受付を開始します—地域医療連携室】

地域医療連携室では、土曜日も「地域予約」のご依頼に対応させていただいております。「地域予約」をお取りいただくことで診察の待ち時間を短縮し、患者さんによりスムーズに受診いただくことができます。是非ご利用ください。

〈地域予約受付時間〉	月曜日～金曜日 9:00～19:30
	<u>土曜日 9:00～12:30</u>
	(年末年始、祝祭日を除く)
〈電話番号〉	06-6606-7014
〈 FAX 〉	06-6693-4143

【(継)「医療相談」コールセンターのご利用を—地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でのご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は	06-6692-2800	(専用電話回線)
新たに開設!	06-6692-2801	(専用電話回線)
相談日時	月曜日～金曜日	午前9時～午後5時
相談対象	医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等	
相談員	看護師	

【(継) 診察予約変更センター

11の診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています!

当センターでは、11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご利用ください。

なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号)	06-6692-1201(代表)にダイヤルして
	「予約変更センター」と言ってください。
(受付時間)	午後3時～午後5時(平日のみ)
(対象診療科)	内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科

免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継)入院治療費の概算を予めお知らせしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

今月の催し

【(新) 日本センチュリー交響楽団・病院コンサート】

～ センチュリー交響楽団が今年も宝石のような音色を聞かせてくれます！～

日 時 6月7日（木）午後3時～
場 所 1階アトリウム
出 演 日本センチュリー交響楽団弦楽アンサンブル
主 催 日本センチュリー交響楽団

【(新) 府民公開講座—認知症の治療とケア—】

—認知症なんて怖くない、笑って吹き飛ばそう—

日 時 6月9日（土）午後1時30分～3時
場 所 本館3階講堂
講 師 神経内科主任部長 狭間 敬憲
(先着100名 参加費無料)

【(新)第19回相愛大学連携（ギャラリー）コンサート】

—6月のバイオリンとピアノの音色は、しとしと雨に映えるあじさい花—

～バイオリンとピアノのアンサンブル～

日 時 6月29日（金）午後2時～
場 所 本館3階講堂
出 演 奥谷 睦代 バイオリン
原田 百恵 ピアノ
演奏曲目 クライスラー 美しきロスマリン
ヴェニャフスキ 伝説曲
ブラームス ハンガリアン舞曲第2番

に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となった。

元永定正（1922－2011）は、三重県生まれで、55年に関西を拠点とする前衛美術集団「具体美術協会」に参加し、吉原治郎に師事。偶然性を取り入れた抽象的なオブジェや平面作品を制作。おおらかでユーモアあふれる作風を確立する一方、70年代からは版画制作にも意欲的に取り組み、自作へのネーミングには抜群のセンスを發揮。

今回の企画展では、関西を代表した二人の巨匠の作品を同時展示します。是非、ご来場ください。

なお、本企画展は大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力で開催しております。

日 時 6月25日（月）～ 9月21日（金）（午前9時～午後5時30分）
場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

【(新) 開催！ 芦屋市美術協会会員—小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医（1988年、心疾患専門診療科部長で退職）として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版（1作目は自費出版）。多くの作品を大阪大学などに寄贈されるなか、氏の手元に残された秀作14点の写真展を開催します。

日 時 6月25日（月）～12月21日（金）（午前9時～午後5時30分）
場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

【(継) 現代美術空間・病院ギャラリー 第5回企画展 今月22日までです！】

「やすらぎの木版作家—浅野竹二 ユーモアとペーソスの自由版画展—」

日 時 平成24年6月22日（金）（午前9時～午後5時30分）まで
場 所 本館2階ギャラリー

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学んだ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。1930年頃からは、木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表しました。

今回は「ユーモアとペーソスの自由版画展」と題して、これまで

展示してきた情景版画とは全く異なる軟らかく暖かい情緒豊かな自由版画をお楽しみいただきます。

【(予告) 初登場！

— 第7回万代・夢亭寄席 太神楽曲芸・魅せます！豊来家玉之助 —】

天満天神繁盛亭、NHK 上方演芸ホール、ニューヨークブロードウェイNY 繁盛亭で大活躍の玉之助さんが来演！傘回し・皿回し・ひとつ毬・ばちのきょくどり・ながばち・雲水など日本伝統の和風曲芸の粋をお届けします。

日 時 7月3日(火) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 豊来家玉之助

主 催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(予告) 第8回万代・夢寄席 —第3回三代目桂春団治一門会落語会— 】

日 時 7月25日(水) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 桂 春雨

桂 治門

主 催 万代やすらぎ亭

協 力 三代目桂春団治師匠を囲む会

(入場無料)

【(予告) たなばた 絵てがみ講習会 ～絵てがみは心のメッセージ～ 】

七夕の前の日、当センターがん患者会「ひまわりの会」が中心になり、楽しい絵てがみ作りを講師の先生のご指導のもと行います。癒しのひとときを一緒にすごしてみませんか。患者さんも患者でない方もご参加をお待ちしています。

日 時 7月6日(金) 午後2時～4時

場 所 1階アトリウム

講 師 斉藤 皋石 先生

主 催 ひまわりの会 (当センターがん患者会)

当センター 看護部自治会 医療サービス改善委員会

(参加費) 無料

**【(予告) 三者連携シンポジウム「生と死を、今考えるⅢ
— “疫を免じる”・がんと免疫の力—】**

I 基調講演

「ここまで来たがん医療 —WT 1 がん免疫療法の最新の成果」

大阪大学大学院医学系研究科教授 杉山 治夫

関連講演

「がん診療における免疫力」

当センター医務局長 谷尾 吉郎

II パネルディスカッション「免疫と健康—笑いは健康の原点」

① 落語 落語家 笑福亭 松喬

② ディスカッション

コーディネーター 釈 徹宗 (相愛大学人文学部教授)

パネラー 笑福亭 松喬

浅田 章 (相愛大学人間発達学部教授)

青木元邦 (森ノ宮医療大学保健医療学部教授)

山田義美 (当センターがん患者会「ひまわり」代表)

谷尾吉郎 (当センター医務局長)

日 時 10月20日(土) 午後 (詳細は、後日発表)

【(予告) 相愛大学連携事業・第3回糖尿病予防セミナー】

日 時 11月10日(土) 午後 (詳細は、後日発表します。)

Topics

【(継) 紫陽花が鮮やかな6月！やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—】

いよいよ季節が6月に進んできました。やすらぎのプロムナードでは、このシーズンを代表する花、紫陽花がしっとりとやさしくその美しい姿を見せてくれます。

今月のコンシェルジュ

【(新) コンシェはどんな人?—前田コンシェルジュの巻一】

前田典子コンシェルジュ「こんにちは。コンシェルジュとして勤務してまだ日は浅いですが、患者さんに少しでもリラックスしていただけるようにという思いで勤めさせていただいております。その中で、最近とてもうれしい出来事がありました。再来受付機を担当しているときに、患者さんから「今、話かけてもよいか?」と言われ、まだ新人の私には不安がよぎりました。しかしその患者さんのお言葉は、「1年前の診断では、絶対治ることがないと言われた病気が治った。先生も驚いておられた。夢にも思わなかったことで、嬉しくて誰かに聞いて欲しかった。ありがとう。」とのことでした。また、「自分には実現したい夢がある。そのためにも気持ちを強く持ち病と闘ってきたけれど、これで夢に向かって進むことができる。」ともおっしゃっておられました。このようなお言葉を「ありがとう」の言葉とともに聞くことができ、私自身とてもうれしく、また励みになりました。多くの患者さんから喜びのお声を聞かせていただけるよう、これからも頑張ろうと思います。よろしくお願いします。」

纜 (ともづな)

本コーナーは、当センターと様々な形で連携し、地域により地域を支えるという理念を共有している個人、団体が主催されているイベントをご紹介します。

【(予告)夏のエンディングセミナー2012】

—「看取り」から地域を支える～人生の最後、誰があなたに寄り添うのか～—

「孤族」の時代、病院死が圧倒的に多数となる時代、すでに「看取り」の風景は家庭の日常から消え去った感があります。しかし、そこから改めて失われた「地域」を再生しようとする取り組みも生まれています。……3人のゲストとともに、「孤族」の時代だからこそ、尊厳と自立をもっていかに「生きぬくのか」を語り合います。(開催趣旨抜粋)

(開催概要)

第1回ゲスト 山口育子 (やまぐち いくこ) さん

(NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)

2002年 COML 専務理事兼事務局長。COML 創始者辻本好子氏の死に伴い2011年に理事長。

日 時 7月8日(日) 午後2時～4時
場 所 大蓮寺 客殿

第2回ゲスト 丸尾多重子（まるお たえこ）さん

（NPO 法人つどいの場さくらちゃん代表）

東京にて「食」関係のあらゆる仕事に従事した後、帰阪。阪神淡路大震災をはさみ、10年間で母、兄、父を在宅で看取る。2003年、マンションで「つどいの場 さくらちゃん」を始め、2008年から西宮の1軒家の借家で介護保険を一切使わない運営を続ける。

日 時 7月14日（土） 午後2時～4時

場 所 大蓮寺 客殿

第3回ゲスト 中下大樹（なかした たいじゅ）さん

（真宗大谷派僧侶・上智大学に常勤講師）

仏教系ホスピス（緩和ケア）病棟に勤務の後、医療・司法・福祉・葬儀業界と連携し、超宗派寺院ネットワーク「寺ネット／サンガ」を設立、代表に就任。生老病死の駆け込み寺として、これまで500人以上の看取りに立ち会う。生活困窮者の葬送支援、自死者遺族の支援、また東北では家族を喪った遺族の支援などに取り組む。

日 時 7月21日（土） 午後2時～4時

場 所 大蓮寺 客殿

（聞き手）秋田光彦（あきた みつひこ）

（浄土宗大蓮寺住職・エンディングを考える市民の会代表・パドマ幼稚園園長、「生と死を、今考えるⅠ・Ⅱ」シンポジウムパネリスト）

1997年に塔頭寺院「應典院」を再建し、地域での社会的、文化的活動の拠点に開放している。

（会 場） 大蓮寺 天王寺区下寺町1-1-30

電話 06-6771-0739

（参加費） 一般1000円、高校生800円

（主 催） 大蓮寺・エンディングを考える市民の会・應典院寺町倶楽部

（協 力） 府立急性期・総合医療センター・やすらぎ通信編集部ほか

（問合せ） 大蓮寺・エンディングを考える市民の会

543-0076 天王寺区下寺町1-1-27

TEL 06-6771-7641 FAX 06-6770-3147

E-mail info@outenin.com

（なお、より詳しくは次号にて掲載します。）

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。
なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」
「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。